

令和元年度 土佐町社会福祉協議会事業報告書

〈事業総括〉

平成から令和の時代を迎え、国では地域共生社会の実現に向けて地域福祉の推進における社協の役割を重視しています。

令和元年度は、土佐町の第3期地域福祉計画と並行し第6次地域福祉活動計画並びに社協強化地域支援計画を策定し、さらに災害事故等に関する行動計画の見直しも進めてきました。

これらの計画を推進するには、しっかりとした業務管理や連携体制等組織全体の強化を図らなければなりません。「いざという時に役に立つ社協」として役割を果たせる体制づくりが課題として見えてまいりました。

令和2年1月16日に、日本で初めて新型コロナウイルス感染者が確認されて以来、日本中で未知の病原体との戦いが始まり、経済の危機的不安や社会を大きく変貌させる事態となりました。土佐町にあっても、暮らしへの影響は大きく、「集まる」という支え合いの基盤が保てない状況になり、今後は経済的な課題が、暮らしにのしかかってくることが予想されます。予測のつかない緊急事態にこそ、私たち社協が今まで何をしてきたか、また何ができるのかが問われる事となります。私たちは、このような厳しい現状を受け止め、柔軟性、即応性をもって、「新しい生活様式」を模索しながら、地域福祉活動を推し進めていかなければなりません。

法人運営部では、新型コロナウイルス感染拡大を予防するため、職務における対応及びサービス利用者や地域活動への感染予防啓発を実施しました。

税務調査、訪問介護事業所への指導監査等により、コンプライアンスにおける改善点も明らかとなり改善に向けて努力し、本年は衛生推進者や第三者委員を委嘱することができました。

また、労働基準局・会計士・社会保険労務士等の専門的な指導を受けるよう努め、働き方改革関連法案に基づく年次有給休暇の取得や、検診料の基本額補助など面談を通じながら職員の意見を取り入れ、職場の改善に努めてきました。また、人員確保にも努め、社会福祉士の増員ができ、今後は包括支援センターとの連携による支援体制を強化していきます。

在宅福祉部では、訪問介護員を募集し、サービス提供責任者等配置基準を満たすように努力してまいりました。サービスを確保するという観点から、事業所の存続をめざして改善を図っているものの、引き続き訪問介護員の確保や安定的な経営に向けて努力が必要です。

また、生活支援・介護予防連絡会の実施、地域・在宅福祉部・地域包括支援センターとの連携により、ニーズの把握から支援にいたるまでの流れが円滑になってきました。他の制度を利用してもなお、「生きづらさ」を抱えている方々への対応も含め、個別支援にも益々力を注いでいくことが必要となっ

ています。その一つのツールとして社会参加応援事業による支援が始まり、制度の間にある方々の支援が一步前進しました。

さらに、教育支援センターの在り方検討会において、学校、社協、地域の連携による子どもたちの支援体制について協議がなされ、今後は社協としても子どもたちや保護者に向けた支援についても協働していく必要があります。

今後は、コロナウイルス感染拡大に伴う相談が増えていくことが予想されることから、細やかな相談に努め、県社協・中央東福祉保健所等と連携して伴走的な支援を行っていくことが重要となってきました。

地域福祉部では、地域における懇談会を重ね、第6次地域福祉活動計画を策定しました。第5次ではあったかふれあいセンターを拠点としたコミュニティ再生のかたちが整い、一定の成果が見え始めました。近年、地域力が低下する中での、主体的な活動にむけた支援の幅は年々広がっている状況にあり、第6次では、一層の地域活動支援が必要となります。

ボランティアセンターも教育委員会との連携により、高校生のボランティア活動支援も行うこととなり、また、手話ボランティアなど多世代にわたるセンターとの関わりを重視してきました。今後は、教育委員会と学校との連携を見直し福祉教育の推進を今一度見直す時期となっています。

コロナウイルス感染防止対策に伴い、「集う」という機能が果たせなくなり、支え合う力が低下した地域には大きな打撃となりました。社協では遠距離の家族の支援が低下することを予想し、3月から訪問活動を実施して、聞き取り調査を実施するなど、生活課題等の状況把握に努めました。また、マスクの縫製ボランティアを募るなど地域のつながりを絶やさない取り組みも進めてきました。

令和2年度は、町が策定した地域福祉計画や避難行動要支援者の計画に伴い、地域における支援や話し合いに向けて防災と地域福祉事業を連携して推進することが重要となります。

◆法人運營部門◆

地域の皆様とのコミュニケーションを図るとともに、積極的な情報開示に努めました。また基金の有効な運用を協議するとともに、財源確保に努め、地域福祉活動に還元することができました。

(1) **社会福祉大会の開催**

令和元年10月26日(土)に第40回土佐町社会福祉大会を開催し、福祉関係功績者に対し表彰並びに感謝状を贈呈した後、福祉推進校活動や地域福祉活動などの発表を行った

- ▶ 参加人数 案内参加者107人 一般参加者 41人

- 被表彰者

大会長表彰 ご長寿 2 人

民生委員兒童委員功績 6 人

社会福祉活動 個人 1 人

大会長感謝状 多額寄附者 12 人

- ▶ 福祉活動推進校発表 土佐町小学校 4年生

土佐町中学校 2年生

- ▶ 地域福祉活動 子どもげんき村 川村治子

- ▶ 講話 「おぼえがき」

京都大学 東南アジア地域研究 研究所

所長 和田泰三

(2) 福祉とさちょうの発行

2,300部 3回

- ▶ 旧小学校区ごとに、地域限定の広報を回覧するなどして広報した

(3) ホームページの立ち上げ

- ▶ NPO法人SOMAに指導を依頼し、基本的なデザインができた 3 回

(4) フェイスブックの運用

- ▶ フェイスブックを運用し広報活動を行った

フォロワー数 756 人

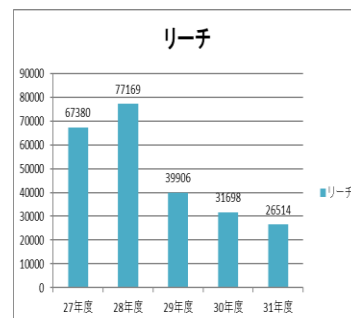
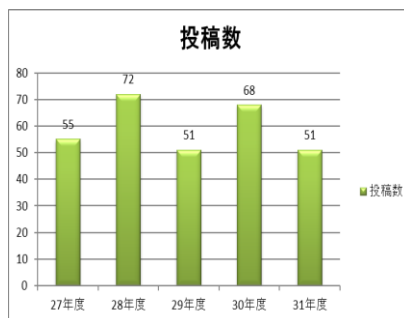
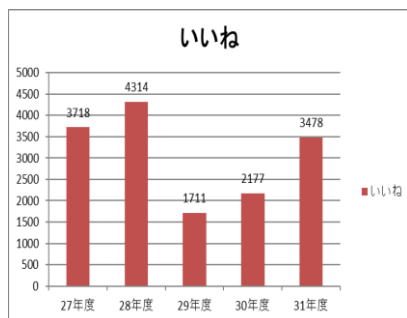
(平成28年度580人 平成29年度665人 平成30年度733人)

フェイスブック投稿

51 回

3,478 いいね

26514リーチ



(5) 社会福祉協議会のパンフレット等を作成し啓発利用

2 回

(6) 地区長会における事業理解促進

4 回

(7) マスコミ・他の広報紙等への掲載

- ▶ 日本福祉大学 ニュースレター 「社会開発の政策研究」
- ▶ 高知新聞掲載 少年剣道ボランティア活動
- ▶ 教育科学研究会 教育87号 「願いを声にする場を求めて」

(8) 告知端末放送の活用

随時

(9) 各地域、団体を対象とした社協事業説明

(10) 後援・共催事業の実施

- ▶ トキワ苑厚敬会地域貢献事業運営委員会事業
- ▶ 日本の教育の未来を考え語る会
- ▶ 森の音楽会
- ▶ 嶺北ゴロワーズイベント
- ▶ 活動計画に関するイベント

森

旧森中跡公園の花壇づくり・芝桜植栽
野中祭

松ヶ丘	三地区合同花見 三地区芋煮会 三地区敬老会 松ヶ丘プール掃除・そうめん流し
相川	相川ららら(棚田ウォーキング 収穫祭) 愛校作業
石原	石原サマースクール
田井	東部地区運動会
瀬戸	大人食堂 ツリーテラスイベント
南川	百万遍祭

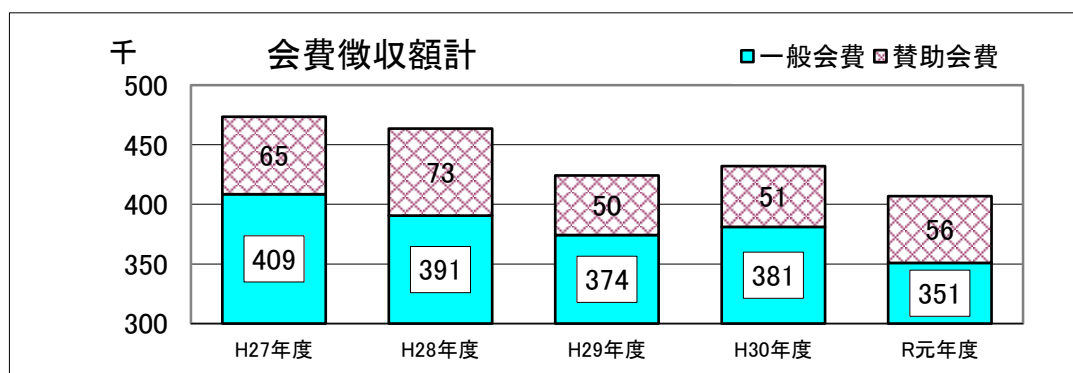
(11) 会費増強にむけた理事会・評議員会による協議

1 回

○ 会員加入推進と会費の徴収に努めた

(一般会員:300円・賛助会員:1,000円)

- ▶ 会費徴収額 350,882 円
- ▶ 一般会費 1,172 世帯
- ▶ 賛助会費 56人(役職員等)



(12) 基金の有効活用と運用計画作成

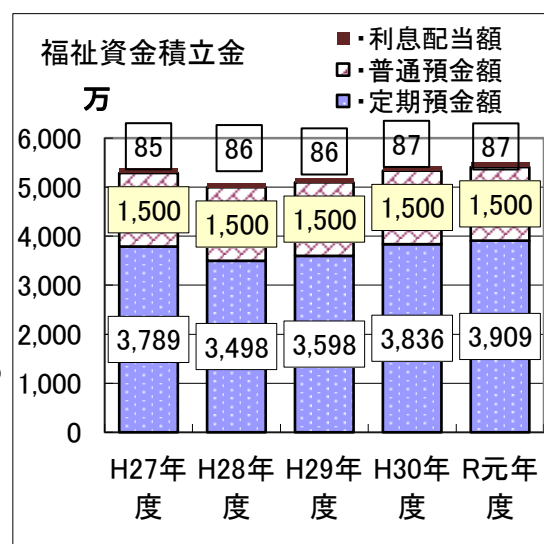
○ 福祉基金積立

基金積立額

- ▶ 定期預金額 39,094,680 円
- ▶ 普通預金額 15,000,000 円
- ▶ 利息配当額 870,695 円

○ 地域支援金事業の促進 (令和元年度実施事業)

- ▶ 相川4地区長会 75,000 円
- ▶ 黒丸地区 100,000 円
- ▶ 旧森小学校区内地区長会 100,000 円



(13) 受託事業等の実施と検証

- ▶ 補助事業 法人運営、心配ごと相談所開設事業、ボランティアセンター活動事業
- ▶ 委託事業 一般介護予防普及啓発事業、生活管理指導、職員派遣
認知症総合支援事業
あったかふれあいセンター事業
あったかふれあいセンター機能強化・拠点支援事業
生活支援体制整備事業、障害者相談支援事業
日常生活自立支援事業(県社協)
自立相談支援事業(生活困窮)(中央東福祉保健所)
- ▶ 介護保険 訪問介護
- ▶ その他 障害福祉サービス、団体事務委託

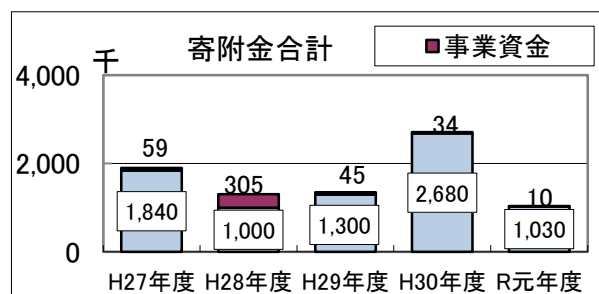
(14) 助成事業に積極的に応募するなど事業資金確保

- ▶ 配分金事業 老人福祉(給食)、福祉育成援助活動(福祉大会・広報)

(15) 募金、寄附についての学習会開催

- 地区長会において説明 1 回
- 寄附活動への理解を促進し、福祉基金・事業資金への寄付を受け入れた

- ▶ 福祉基金寄附金 10 人
1,030,000 円
- ▶ 事業資金寄附金 1 人
10,000 円



(16) 共同募金利用団体との募金活動連携強化

- 共同募金について住民への周知に努め募金活動を実施した
 - ▶ 一般募金
目標額: 922,000 円 実績額 891,977 円
 - ▶ 歳末たすけあい募金
目標額: 30,000 円 実績額: 0 円
 - ▶ 共同募金配分金事業(一般募金配分額:534,848円)
高齢者福祉事業として老人給食材料費と配食ボランティアへの実費弁償費に
また、社会福祉大会経費、広報費として活用した
- 日赤奉仕団の活動支援と共に、活動資金募集を行った
 - ▶ 日赤活動資金
目標額:615,000 円 実績額:594,534 円

課題を明確にするため検証を重ね、事業を見直し、地域ニーズに沿った事業の推進に努めました。また目標に向かい一致団結して行動できる組織づくりをめざし取り組みました。

(1) **社協強化・地域支援計画におけるPDCAサイクル実施**

- ▶ 9月に中間報告を作成し、推進状況を確認
- ▶ 2月に第二期強化計画策定協議

(2) **職員会における定款・規程・要綱・マニュアルの確認**

- ▶ パートタイム職員への説明 1 回
- ▶ 嘱託職員への説明 1 回
- ▶ 職員会における就業規則の説明 1 回

(3) **行政との事業評価と法改正に伴う事業見直し協議** 2 回

- ▶ 出向している職員についての処遇・研修の在り方、生活支援コーディネーターの位置づけや、各事業の推進における方向性について協議

(4) **団体事務の合理化と団体活動支援**

- ・民生委員児童委員協議会 ・老人クラブ連合会 ・遺族会
- ・身体障害者協議会 ・日本赤十字社土佐町分区 ・日本赤十字社中央東地区
- ・共同募金土佐町支会

(5) **理事会(部会)の開催による協議** 5 回 (内 部会1回)

(6) **評議員会による評議** 3 回

- 理事会・部会・評議員会の開催により事業計画と予算執行の安定かつ効果的な法人運営に努めた

理事会		決議事項	参加人数
第1回	令和元年5月31日 13:30～15:30	・平成30年度事業報告並びに収支決算承認について	理事 10 人
		・平成30年度会計監査報告について	監事 2 人
		・評議員会への理事・監事候補者の提案について	計 12 人
		・定時評議員会開催について	
		・理事会開催について	
		・給与規定改定について	
		・会長業務報告	

第2回	令和元年6月21日 13:30～15:55	・会長副会長の選任について ・顧問の委嘱について ・部会の構成について ・部会設置規程の一部改訂について ・会長業務報告	理事 10 人 監事 2 人 計 12 人
	部会	・部会長・副部会長の選任について ・各部の事業進捗状況について	
第3回	令和元年9月25日 13:30～16:03	・社会福祉大会表彰者推薦について ・第三者委員設置に関する規定設置について ・社会参加応援事業実施要項設置について ・会長業務報告	理事 9 人 監事 2 人 計 11 人
第4回	令和元年12月6日 13:30～15:48	・給与規定の一部改訂について ・補正予算について ・地域福祉活動計画推進員設置要綱の一部改訂について ・会長業務報告	理事 9 人 監事 2 人 計 11 人
第5回	令和2年3月17日	・令和元年度補正予算について ・令和2年度事業計画について ・令和2年度法人本部拠点区分収支予算書について ・第2期社協強化・地域支援計画について ・定時評議員会開催について	全員書面決議

評議員会		決議事項	参加人数
第1回	令和元年6月21日 10:00～11:15	・平成30年度事業報告及び収支決算承認について ・平成30年度会計監査報告について ・理事・監事の選任について	出席委員 10 人
第2回	令和元年12月6日 15:00～16:05	・給与規定の一部改訂について ・令和元年度補正予算について ・地域福祉活動計画推進員設置要綱一部改訂について	出席委員 12 人
第3回	令和2年3月26日	・令和元年度補正予算について ・令和2年度事業計画について ・令和2年度法人本部拠点区分収支予算書について ・第2期社協強化・地域支援計画について ・定時評議員会開催について	全員書面決議

(7) 評議員選任解任委員会の開催

0 回

(8) **職員会 部会 主任会の開催と充実**

- 主任会・職員会を実施し、健全な法人運営や事業経営をめざすとともに、報告・連絡・相談を徹底し各部門間の連携に努めた。

▶ 職員会	12 回
▶ 主任会	4 回
▶ 在宅福祉部会	5 回
▶ 地域福祉部会	7 回
▶ 総務部会	2 回
▶ あったか職員連絡会	5 回
▶ 毎日ミーティングの実施	

(9) **三役会の開催** 2 回

- (10) **職員面談の実施** 1 回 (職員全員と事務局長)
5 回 (随時個別面談)

専門機関からの支援を受け、コンプライアンスの徹底を図るとともに、職員の資質向上をめざし取り組みを進めました。

(1) **各研修・学習会への積極的参加**

- 職員の資質向上のため、他の社協への訪問や研修参加に努めた

▶ 法人運営・会計関係	4 日	延べ	6 人
▶ 在宅福祉事業関係	9 日	延べ	9 人
▶ 地域福祉事業関係	6 日	延べ	6 人
▶ 役員研修	1 日	延べ	2 人

(2) **大学・専門機関からの指導助言を促進**

▶ 日本福祉大学	4 回	(日本福祉大学)
▶ 労働基準監督署	2 回	
▶ 税務署	1 回	

(3) **法改正に則した諸規程の見直し**

- ▶ 給与に関する規程一部改訂
- ▶ 部会設置規程一部改訂
- ▶ 社会参加応援事業運営規定設置

(4) **第三者評価委員の設置** 2名設置

(5) **先進的な社協等との交流及び視察研修受け入れ**

- インターンシップや視察研修受け入れ
 - ▶ 各書計画策定のため事務作業が増加するため視察研修は受け入れを制限した
 - ・ 総務省 2 回
 - ・ 高知市秦地区民児協 1 回

(6) **危機管理の強化(情報漏えい・災害時対応等)**

- 福祉センター実施するシェイクアウト訓練に参加
- 災害・事故等に関する行動計画を見直し
- コロナウイルス感染予防に関する対応

(7) **学習会の開催**

- ▶ 新採用の職員対象に基本研修
- ▶ 年始研修 町の研修に参加
- ▶ 日高村社会福祉協議会における見守り活動について(理事・職員合同)
- ▶ 日本福祉大学CRTP 研究会ワークショップ

(8) **文書の保存・廃棄等適切な管理**

- 年度末に文書整理と廃棄実施

(9) **働きやすい職場づくり**

- ▶ 職員会議で業務中の問題点を共有し、事故防止に努めた
- ▶ 面談等において職員より要望を聞くなどして改善に努めた
- ▶ 検診料の基本額を支給

行政・各関係機関との連携をより強化し、地域福祉事業の位置づけを明確にできるよう取り組みました。また、町と一体となり、各諸計画に基づいた事業を推進するとともに、第5次地域福祉活動計画の実現にむけた支援の強化に努めました。

(1) **第5次地域福祉活動計画評価委員会の設置・運営**

- ▶ 7月22日 地域福祉活動計画評価委員会を実施した
評価委員・オブザーバー 11人 職員 2人 理事 1人
- ▶ 第5次の検証と、第6次計画策定のため地域座談会を開催した
- ▶ 町が策定する振興計画策定のため、座談会を1月からの実施に変更し
策定委員会を令和2年5月に実施予定
より多くの意見をもって話し合いをすすめるため事前に旧小学校区ごとのアンケートを実施し、地区ごとのまとめを懇談会に提示し話し合いをすすめた

月	行 程
4月	地区長会にて策定におけるスケジュール周知
	土佐町地域福祉計画策定スケジュールの打ち合わせ
	評価委員会準備
	事務局で作業手順確認
7月	第5次評価委員会開催
8月	策定懇談会準備
	土佐町地域振興計画策定スケジュールの打ち合わせ
9月	地区長会にて説明
	策定スケジュール説明
12月	地区長会にて依頼
	まちづくりメイト選出依頼
	理事会にて説明 事前アンケート依頼
1月から2月	策定懇談会実施し活動目標を協議(旧小学校区)
	事前アンケートの結果報告
	第5次計画の振り返り
3月	第6次計画策定案作成
	第5次計画の振り返りまとめ

▶ 懇談会の開催状況

旧小学校区	月 日	場 所	人数
瀬 戸	1月28日(火)	瀬戸コミュニティセンター	14名
和 田	1月30日(木)	中和田集会所	12名
石 原	2月 4日(火)	石原コミュニティセンター	19名
平 石	2月 6日(木)	平石コミュニティセンター	17名
相 川	2月10日(月)	相川コミュニティセンター	10名
森	2月13日(木)	土佐町保健福祉センター	24名
田 井	2月18日(火)	田井農村環境改善センター	27名
地藏寺	2月25日(火)	地藏寺笑学校	15名
松ヶ丘	2月27日(木)	松ヶ丘コミュニティセンター	18名
南 川	3月 3日(火)	南川会館	6名

(2) 役職員の地域担当制の整備

- ▶ 主任会・職員会にて地域担当の業務について協議を行った

(3) 行政各課との連携強化

- 行政・社協相互の事業の理解と連携を図るため連携会議を開催した
 - ▶ 健康福祉課との強化計画についての会議

2 回

(4) 議会議員との懇談会開催

- ▶ 2月6日 福祉課題の説明と社協事業について

(5) 町・県の実施する連携に関する会議への参加

町	▶ 集落支援員・産業振興課・健康福祉課・社協の連絡会	11 回
	▶ 役場地域担当者リーダー会議	2 回
	▶ 役場地域担当者会	18 回
	▶ 次年度予算について福祉課との連携会議	2 回
	▶ 生活支援・介護予防連絡会	4 回
	▶ 土佐町地域ケア推進会議	1 回
	▶ 土佐町地域ケア会議(個別ケア会議)	4 回
	▶ 障害者支援における事例検討会	1 回
	▶ 土佐町要保護児童対策地域協議会実務者会議	3 回
	▶ あじさいネット会議	1 回
	▶ 土佐町地域福祉計画策定にかかる検討会・専門部会	2 回
	▶ 認知症事業の打ち合わせ会(包括)	5 回
県・ 大学等	▶ 災害ボランティアセンター体制強化事業に係る打ち合わせ会	1 回
	▶ 高知県地域福祉活動支援計画検討委員会	3 回
	▶ 障害者就業・生活支援センター「ゆうあい」令和元年度第1回中央東地区連絡会	1 回
	▶ 生活困窮者自立相談支援事業 県・県社協ヒアリング	1 回
	▶ 県地域福祉部ヒアリング	1 回

◆在宅福祉部門◆

身近で気軽に相談できるよう相談体制を強化し、訪問介護等により在宅における自立した暮らしを支援しました。

(1) 訪問介護における在宅生活支援

○ 人員不足傾向ではあるが、需要に合わせた安定供給に努めた

- ▶ 職員体制 令和元年12月正規職員の退職に伴い、令和2年1月非常勤より正規登用非常勤1名を補充し、最低限の体制をなんとか確保できた

サービス提供責任者:1人(正規職員・介護福祉士)

介護福祉士:2人(非常勤) 2級ヘルパー:3人(非常勤)

▶ 介護保険事業

訪問介護事業

対象者 年間 21 人 (令和2年3月現在 16人)

介護予防・日常生活支援総合事業

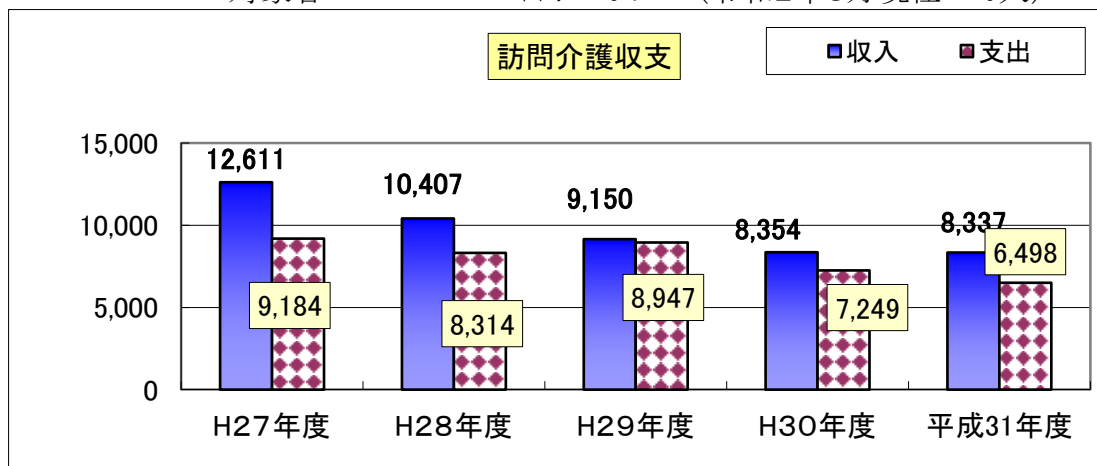
対象者 年間 13 人 (令和2年3月現在 9人)

▶ 障害福祉事業

対象者 年間 4 人 (令和2年3月現在 3人)

▶ 自立生活支援訪問事業(町委託金対象)

対象者 年間 0 人 (令和2年3月現在 0人)



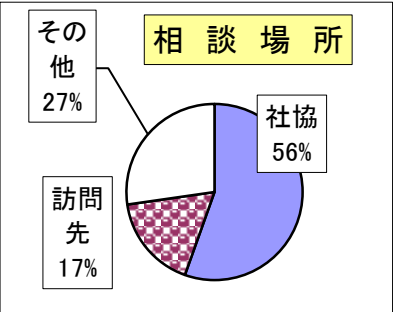
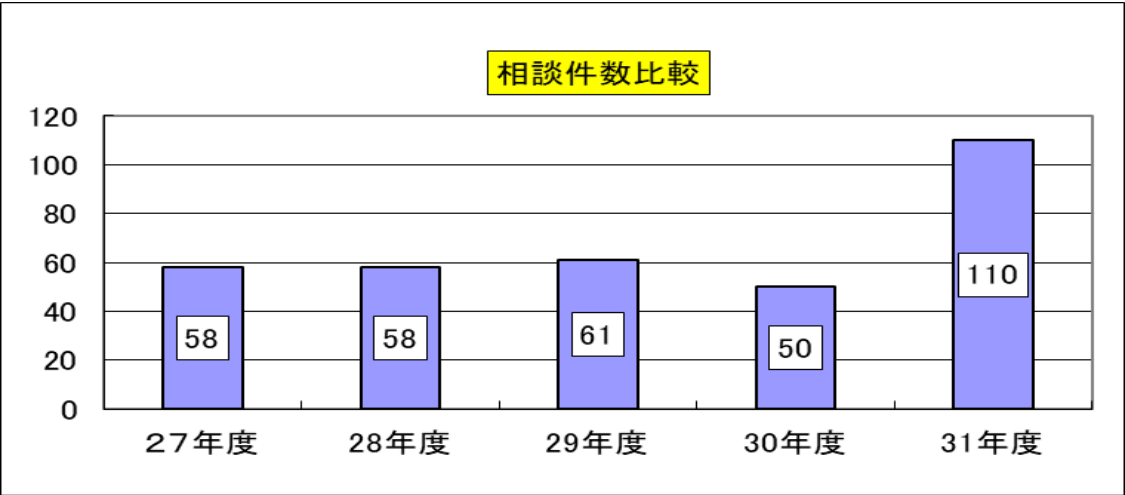
(2) 心配ごと相談所を活用した出張相談対応

11 回

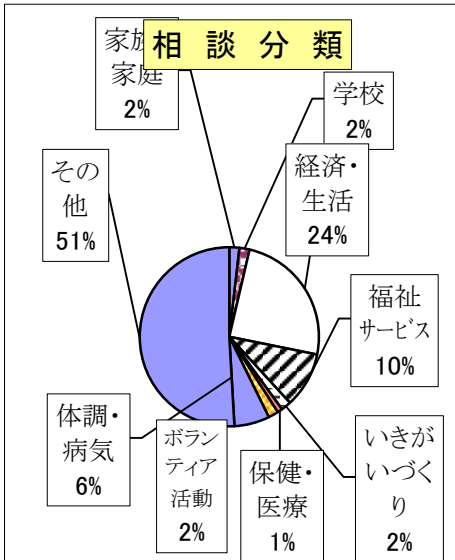
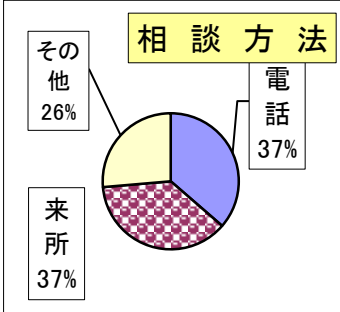
(3) 『きいてねっと』での電話や面談による相談対応

110 回

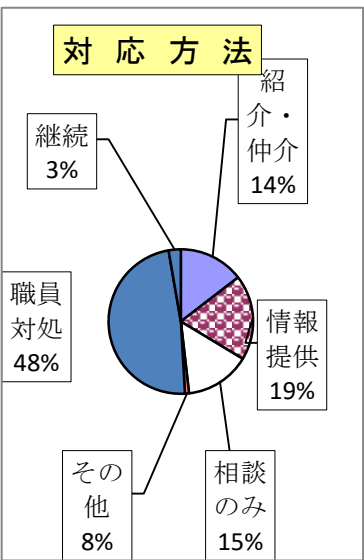
○ 総合的な相談窓口として相談を受け付け対応した



相談場所		相談方法	
61	社 協	電 話	40
19	訪 問	来 所	41
30	その他	その他	29
110	計	計	110



相談分類		対応方法	
2	ボランティア活動	紹介・仲介	16
2	家族・家庭	情報提供	21
2	学校	相談のみ	16
27	経済・生活	VC連携	1
11	福祉サービス	職員対処	53
2	いきがいきづくり	継続	3
1	保健・医療		
7	体調・病気		
56	その他		
110	計	計	110



制度やサービスの隙間にある方への個別支援体制を強化し、各専門職と連携し、個々の課題に応じた伴走的な支援体制づくりにむけて取り組みました。

(1) 生活困窮者自立支援法に基づく自立支援

総合相談窓口として相談を受け、各機関と連携し対応に努めた

- ▶ 県・中央東福祉保健所・県社協・嶺北4町村社協等と、支援についての協議、連携
- ▶ 関係機関、各団体等の会合・あったかふれあいセンター等に参加し、協力依頼、情報収集
- ▶ 定期的に各支所、図書館等に関連チラシ等配布、協力依頼、情報収集
- ▶ 各事業所等において雇用に関する協力依頼
- ▶ 各関係機関との連携や、支援が必要な住民に対する効果的なアプローチについて意見交換(支援会議の定期的開催は無)
- ▶ 県社協フードバンクと連携し、食糧支援
- ▶ 嶺北地域出張ハローワーク開設協力
毎月第三火曜日午後1時から土佐町農村環境改善センターにおいて開設
嶺北4ヶ町村の生活困窮者自立支援事業利用者・生活保護受給者が利用
- ▶ 研修会、説明会、連絡会等へ参加 6 回
- ▶ 個別訪問等で情報収集、要支援者支援 延べ 181 件
- ▶ 自立相談支援機関受付件数 21 件
 - ・ プラン作成 4 件 (前年度からの続行あり)
 - ・ 同意に向けて取り組む 0 件
 - ・ 他機関につなぐ 8 件
 - ・ 情報提供のみで終了 9 件
 - ・ 相談継続 2 件
 - ・ その他(窓口で完結、打ち切り、解決) 4 件 (上記重複あり)

(2) 相談支援員・主任相談支援員配置による支援体制整備

各 1 人

(3) 障害者総合支援法に基づく計画相談及び自立支援

○ 一般相談事業を受託し、障害(児)者の相談支援を実施した

▶ 土佐町 23 人 対応時間 118.4 時間

○ 指定特定相談支援事業(計画相談支援)の状況(平成31年3月末現在)

▶ 土佐町 23 人

(4) **日常生活自立支援事業による生活支援**

- 高齢者や障害者の方などが自分ひとりで判断することが難しくお困りの場合に、安心して日常生活が送れるように支援に努めた

- ▶ 利用者 3 人（認知症高齢者1人・知的障害者1人・精神障害者1人）
- ▶ 利用内訳 日常的金銭管理サービス 3 人
- ▶ 解約者 1 人
- ▶ 関連支援 制度利用準備中 2 件

- 生活支援・介護予防連絡会の開催 4 回

(5) **生活支援員による支援体制整備**

- ▶ 担当者 専門員(職員)1人 + 生活支援員 1人

(6) **低所得者層への福祉資金貸付けによる自立生活への支援及び償還指導**

- ▶ 生活福祉資金貸付事業委託事務
- ▶ 県社協の行う貸付事業に対し、民生児童委員協議会とともに、債務者への償還指導ならびに、貸付相談に応じた

令和2年3月31日現在 貸付件数	4 件
------------------	-----

平成31年度 新規貸付	0 件
-------------	-----

- ▶ 社会参加応援事業 4 人（助成金:37,250円）

- 小口生活福祉資金貸付事業(自主財源:500,000円)

低所得者の在宅生活の自立更正を図るための相談に応じ、適切な資金貸付を実施し、償還指導に努めた

- | | | |
|--------------------|-----|-------------|
| ▶ 令和2年3月31日現在 貸付件数 | 3 件 | (内保護費受給者1人) |
|--------------------|-----|-------------|

- | | | |
|-----------------|-----|-------------------|
| ▶ 平成31年度 貸付滞納件数 | 1 件 | (最終償還日 H30.10.31) |
|-----------------|-----|-------------------|

- | | |
|---------------|-----|
| ▶ 平成31年度 新規貸付 | 2 件 |
|---------------|-----|

(7) **介護家族会の開催** 5 回

※1回はコロナウイルス感染防止対策の為、実施中止

(8) 認知症サポーター養成等理解促進のための学習会を開催

○ 認知症総合支援事業

- ▶ あじさいネット会議の開催 1回
- ▶ 多職種協働による事例検討を実施 1回
- ▶ あじさいネット会議ついてアンケート調査を実施
(あじさいネットで取り組みたい事、学びたい事等)
- ▶ 認知症に関する正しい知識の普及啓発活動

テーマ	月日	参加人数	講師
回想法と認知症についての学習会(地藏寺)	9月4日	13 人	キャラバンメイト:和田純一
認知症についての学習会(美松)	12月25日	17 人	キャラバンメイト:和田純一・川田美代子
認知症についての学習会(駒野)	1月10日	12 人	キャラバンメイト:和田純一

- ▶ 職員やキャラバンメイト等の資質向上に向けた学習会の実施

テーマ	月日	参加人数	講師
成年後見制度について	11月13日	18 人	やいろ法律事務所 山本尚吾弁護士

- ▶ 認知症地域支援員現任研修会へ参加 1回
- ▶ 高知県認知症カフェ交流研修会へ参加 1回
- ▶ 認知症サポーター養成講座
役場職員、社協職員、地域サポーター、土佐町立図書館職員対象

テーマ	月日	参加人数	講師
認知症サポーター養成講座(午前開催)	9月30日	54 人	キャラバンメイト:和田純一
認知症サポーター養成講座(午後開催)			キャラバンメイト:伊藤楯男

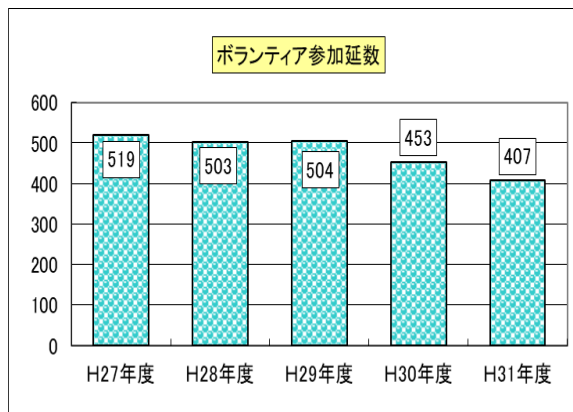
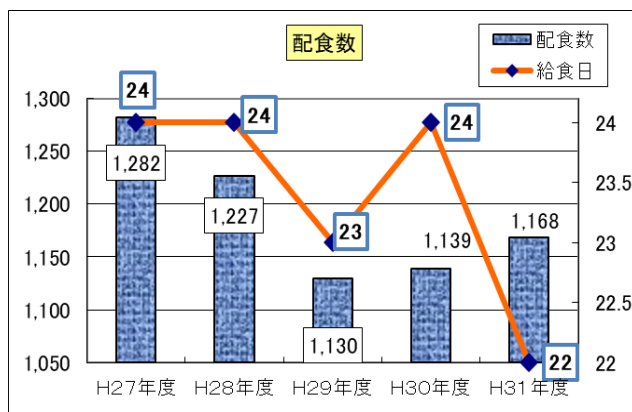
- ▶ 認知症の人やその家族を地域で支える体制づくり
とんからりんの家ボランティア・あったか地域サポーター対象に学習を開催

テーマ	月日	参加人数	講師
認知症理解についての学習会(標語を作成)	12月17日	18 人	講師:早明浦病院 藤澤道子医師

- ▶ あったかふれあいセンター集い等にて認知症の方をサポート
あったかふれあいセンター平石・地藏寺、地域の集にてキャラバンメイトによる支援 10回
- ▶ ケアパスを増刷し活用(事例検討会や家族の集いで活用)
- ▶ 小学校での読み聞かせボランティアを活用した認知症理解への学習 4 回

(9) 老人給食を活用した声かけ訪問による状況把握

- ▶ 給食日 22 回 ※3月コロナウイルス感染予防対策の為に中止
- ▶ 対象者 85歳以上独居高齢者又は会長が必要と認めた者
独居高齢者(月2回) 69人
- ▶ 総配食数 1,168食
- ▶ ボランティア 調理 173人 配食 234人 延 407人
(内民児委員) 調理 62人 配食 100人



(10) 傾聴ボランティアによる寄り添い関係の構築

- 傾聴ボランティア活動により、継続的な見守りと孤立予防活動が促進された
- ▶ 対象者 10人 23件

(11) 在宅福祉サービスの苦情処理対応

0件

(12) 地域包括支援センターをはじめ、行政や民児協等関係機関(者)との連携による協働支援(ケース会の実施)

30回

内ネットワーク面談20回

必要な支援・サービスを受けられるよう、細やかなニーズ把握を行うと共に、自然災害や事故・犯罪に巻き込まれないよう日常のつながりづくりを強化しました。

(1) 民児委員・福祉推進員による地域の実態把握

随時

(2) 旧小学校区における地域見守り支援体制づくり(で愛ふれ愛たすけ愛懇談会)

- ▶ あったか推進会議との協働実施へ移行

(3) 警報発令時の声掛けの定着化

民児協等意識啓発

0回

(4) 高齢者世帯防火防災点検の実施

- 嶺北消防署、本山警察署、四国電力と協力して、独居高齢者本人と住居に対しての防災点検、防犯意識の啓発を実施
 - ▶ 4 月 17 日 対象世帯：6世帯（6人） 実施地区；上野
- 嶺北電気工事業組合のボランティア事業で、電気に関する点検や配線の簡易な修理を4年に1度巡回実施
 - ▶ 本年度非該当

(5) 町外の家族とのつながりづくりにむけた検討

未実施

(6) 民児協と連携した学校・保育・保護者とのつながりづくり

- ▶ 民児協・教育委員会・学校と検討し、つながりづくりの為の活動を実施

(7) 障害(児)者のいる世帯への防犯・防災への啓発

未実施

(8) 見守り協定団体・警察との連携会議の実施

未実施

(9) 要保護児童対策地域協議会へ参加し連携強化

3 回

(10) 嶺北地区自立支援協議会へ参加し障害者の課題解決にむけた取り組み

土佐町部会 個別事例検討 1 回

れいほく地区障害者自立支援協議会全体会 1 回

就労支援部会 2 回

相談支援部会 2 回

※相談支援部会で「集える場所」については嶺北各町村で足固めを行う。嶺北全体での研修会を実施し、つながりづくり、啓発を図っていく。

健康福祉課や関係機関との連携を強化し、ふれあいの場づくりを推進するとともに、外出支援体制をつくりました。

(1) 車椅子貸し出し

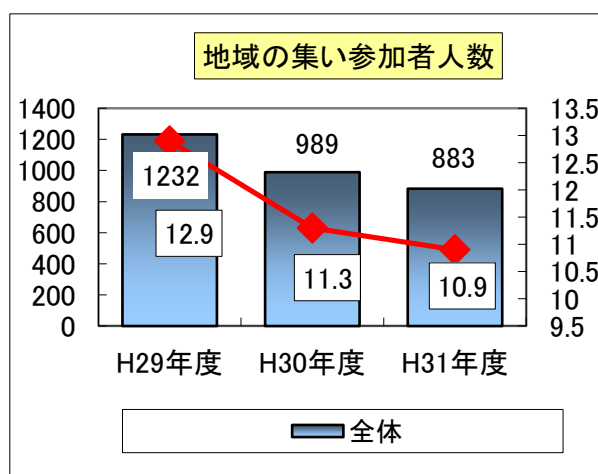
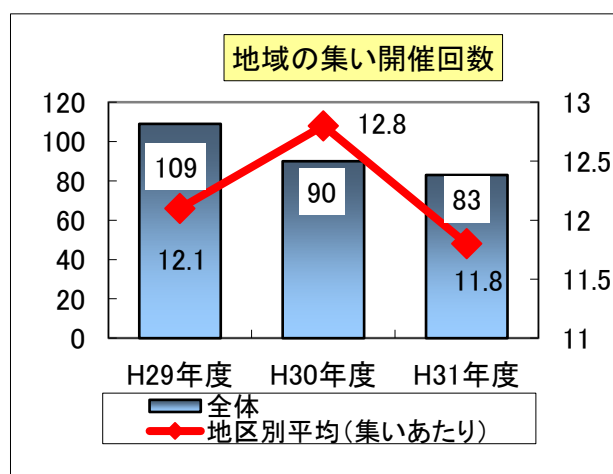
16 回

(2) フィールド医学事業と連携し、介護予防普及啓発事業(町受託)の推進

○ 地域での転倒予防体操普及に努めた

▶ 地域の集いにおける転倒予防運動の実施

実施集い人	回 数	参加人数	
		実人数	延べ人数
中島ふれあいの集い	8	18	85
上野・田井ふれあい喫茶	6	36	124
桜会	9	24	99
上ノ土居の集い	6	20	80
田井なでしこふれあいの集い	6	29	121
舞田の集い	11	10	83
三島会	37	10	291
合 計	83	147	883



※ コロナウイルス感染拡大予防対策のため、3月は集いを中止

▶ あったかふれあいセンターにおける転倒予防運動の実施

サテライト拠点	回 数	参加人数	
		実人数	延べ人数
平石	9	16	102
地藏寺	17	31	326
和田	10	14	111
森	42	26	630
石原	10	26	138
松ヶ丘	8	24	118
相川	10	23	112
南川	8	11	52
黒丸・下瀬戸	1	19	19
とんからりんの家	162	33	2,298
合 計	277	223	3,906

- ▶ 理学療法士指導による体力測定や、前田郁健康運動指導士による体操教室
13ヶ所 192人
- ▶ 若い世代に向けての普及啓発教室を開催(からだまるごと健康講座)
7回 158人
- ▶ 自主開催を行っている地域の集いへの外出支援を行った
5回 68人
- ▶ 包括支援センターと連携し高知県が実施する健康パスポートの取組みを実施
- ▶ 普及啓発のためのオリジナルタオルの活用

(3) 介護予防等の事業における送迎

- あったか強化事業により、送迎の充実が図れた

(4) 身障協等と連携し、社会参加への取り組みを協議

- ▶ 室戸市への外出支援 1 回

(5) 行政、ボランティアと連携し「やまびこ倶楽部」等で地域とのつながりを支援

- ▶ やまびこ倶楽部 7 回
- ▶ デイケア交流会あったかハートふれあい大会に協力 2 回

(6) 障害者の移動手段確保

- ▶ 送迎のニーズに全て対応した

(7) どんぐりにおける外部就労体験の場づくりを支援

- ▶ JA・清掃事業等への就労支援
- ▶ 三島ファームでの作業
- ▶ 「土佐町ものがたり」Tシャツプリント作業

◆地域福祉部門◆

センターの役割や、ボランティア活動の見える化をすすめるため、広報・啓発を強化しました。

(1) ほにゃら新聞の発行 3回 (1,270部/1回)

(2) ボランティアに関するパンフレット作成・利用

▶ 福祉大会にてボランティア活動募集のチラシをつくり配布をした

(3) 社会福祉大会等活動発表の場づくり

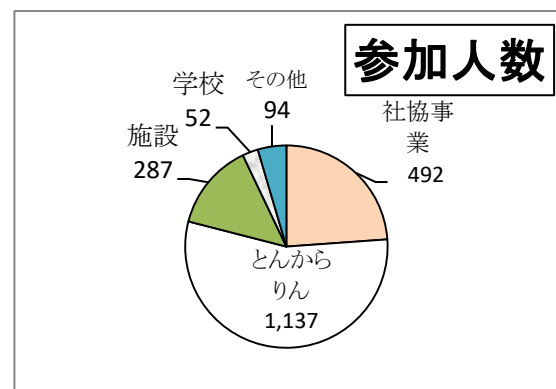
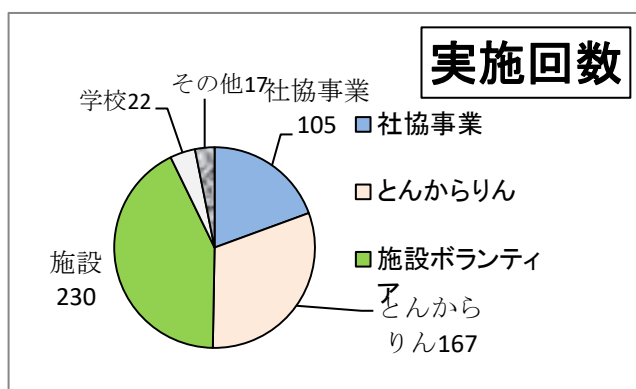
▶ 活動発表 ⇒ 土佐町中学校2年生、土佐町小学校4年生
こども元気村

ボランティアの養成、登録を推進し、それぞれの年代が、参加しやすい活動を推進しました。

(1) 個人・団体の登録を推進 29 団体(1,087人) 個人 58 人

▶ 機材貸出しや印刷機利用など登録団体への支援を行った

(2) ボランティア登録・相談及び実績記録を整備した



(3) ボランティア活動推進のための協議会を設置

▶ 未実施

(4) 企業へのボランティア活動普及のための訪問

- ▶ ほにゃらら新聞配布先への声掛け訪問を実施した。 11 件

(5) 児童生徒・PTAへのボランティア活動の促進

- ▶ 嶺北高校生 あったかふれあいセンター長期休暇プロジェクトへのボランティア募集
- ▶ 小学生高学年対象にボランティアワークキャンプを実施
- ▶ ほにゃらら新聞を通じて、ボランティアプログラムを紹介した

(6) ボランティアに関する研修への参加

- ▶ 10 月 24 日 災害ボランティアセンター中核スタッフ研修 1 人
- ▶ 2 月 22~23 日 全国ボランティアコーディネーター研究集会
※参加手続きしていたが、コロナ感染予防対策のためキャンセル
- ▶ 2 月 27 日 ボランティア学習体験の場づくり検討会 1 人

(7) ボランティア養成講座の実施

- ▶ 介助ボランティア養成講座 8 人
- ▶ 傾聴ボランティア養成講座 ※コロナウイルス感染防止対策の為、中止

(8) ボランティアに関する調査実施・情報収集

- ▶ 実施なし

(9) 見守り 声掛けボランティアの推進

- ▶ 地域福祉活動計画懇談会での協議の際、促進を図った
- ▶ あったかの集い参加促進を図り、利用者に呼びかけを行った

(10) 日常行われている地域でのボランティア活動の見える化

- ▶ ほにゃらら新聞にて紹介 3 回
- ▶ フェイスブックにて紹介

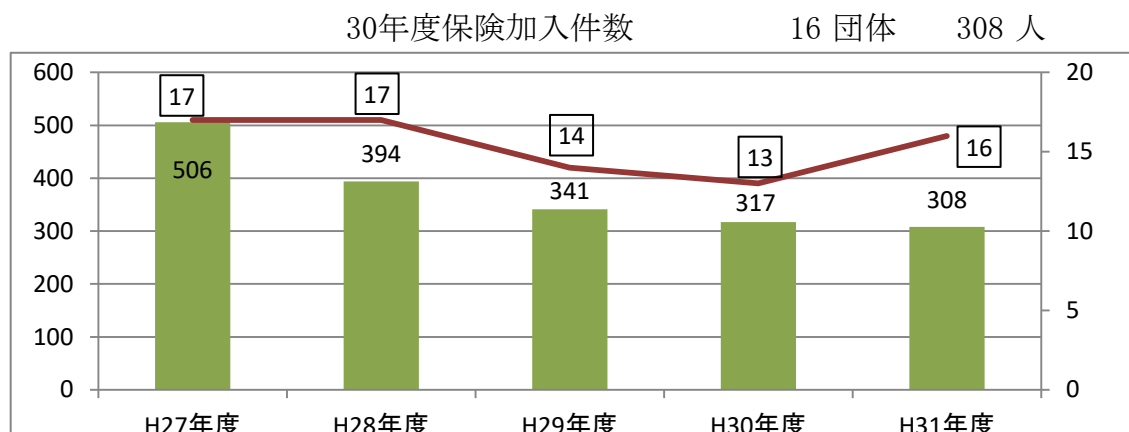
(11) 家庭でできるボランティア(プチボラ)推進

- ▶ ほにゃらら新聞にて記事掲載 3 回

(12) 新たなボランティアの発掘

- 森郷ミニ八十八ヵ所を楽しむ会設立及び、手話サークル自主活動に向け支援を行った
 - ▶ 新規登録者 3 人
 - ▶ 新規登録団体 新規登録団体なし

(13) ボランティア活動保険への加入促進



(14) ファンドレイジング等資金づくりにむけた学習・研修参加

▶ 参加なし

(15) 災害ボランティアセンターの訓練及び研修

- | | | | |
|---|----------|----------------------|------|
| ▶ | 1 月 30 日 | 災害ボランティアセンター中核スタッフ研修 | 1 人 |
| ▶ | 1 月 31 日 | 「災害に備える」職員研修会 | 21 人 |

(16) NPO・ボランティア団体への活動支援

○ 企業、団体の活動支援とボランティア募集を行った

- ▶ 7 月 11 日 緑の風ボーカルアンサンブルミニコンサート(森)
- ▶ 7 月 13 日 岡田孝夫ミニコンサート(早明浦病院)
- ▶ 9 月 28 日 相川ららら棚田ウォーキング
- ▶ 10 月 20 日 森の音楽会
- ▶ 11 月 9 日 瀬戸ツリーテラス催し
- ▶ 11 月 10 日 湖畔マラソン大会
- ▶ 11 月 17 日 相川ららら収穫祭
- ▶ 11 月 17 日 松ヶ丘3地区合同防災訓練・芋煮会
- ▶ 12 月 14 日 厄除け作り(中島の集い)
- ▶ 12 月 24 日 緑の風ボーカルアンサンブルミニコンサート(地蔵寺)
- ▶ 1 月 19 日 土佐町駅伝
- ▶ 1 月 29 日 アコーディオンミニコンサート(トキワ苑)
- ▶ 2 月 9 日 話しの聞き方講座(Npo法人井戸端わもん)
- ▶ 2 月 22 日 大人食堂in瀬戸
- ▶ 2 月 29 日 こうちNpoフォーラム2019(子ども元気村)
- ▶ 3 月 21 日 土佐町少年剣道30周年記念行事

※ 子ども元気村、手話サークル、森郷ミニ88を楽しむ会活動支援 通年

(17) ボランティア団体・関係機関とのボラセン交流会の実施

▶ NPO意見交換会

※コロナウイルス感染防止対策の為、実施中止

(18) **レク資材・印刷機等貸し出し**

▶ レク資材 プロジェクター等資材	13 回
▶ 印刷機利用	23 回

学校・地域・教育委員会と連携し、福祉教育・ボランティア学習をより充実させることにより、次世代を担うボランティアの育成に努めました。

(1) **保・小・中・高との連携のための会議開催**

▶ 土佐町小・中学校校長と小・中総合学習の系統などについて協議	1 回
▶ 嶺北高校とキャリア教育支援事業についての協議	1 回
▶ みつば保育園との事業打ち合わせ	1 回
▶ 土佐町小・中学校との授業打ち合わせ	8 回
▶ 嶺北高校との授業打ち合わせ	3 回

(2) **教職員・行政職員等にむけた福祉教育の研修会開催(未実施)**

▶ 未実施

(3) **授業カリキュラム作成へのサポート**

▶ 土佐町中学校1～3年生総合的な学習の時間等への支援	6 回
▶ 土佐町小学校	0 回
▶ 嶺北高校1～3年生福祉の人材育成にむけたキャリア教育	2 回

(4) **学校応援・授業支援ボランティアの調整**

▶ 土佐町中学校授業講師のコーディネート	6 回	16 人	(延べ)
▶ 土佐町中学校2年生職場体験コーディネート	1 回(20か所)		
▶ 土佐町中学校授業地域住民ボランティア調整	11 人		
▶ 嶺北高校授業講師のコーディネート	1 回	8 人	
▶ 嶺北高校職場体験コーディネート	1 回(5事業所)		

第5次地域福祉活動計画が住民に浸透するよう努めると共に、住民・行政・社協が協働できる体制をつくり、目標達成にむけた地域活動の支援を強化に努めました。

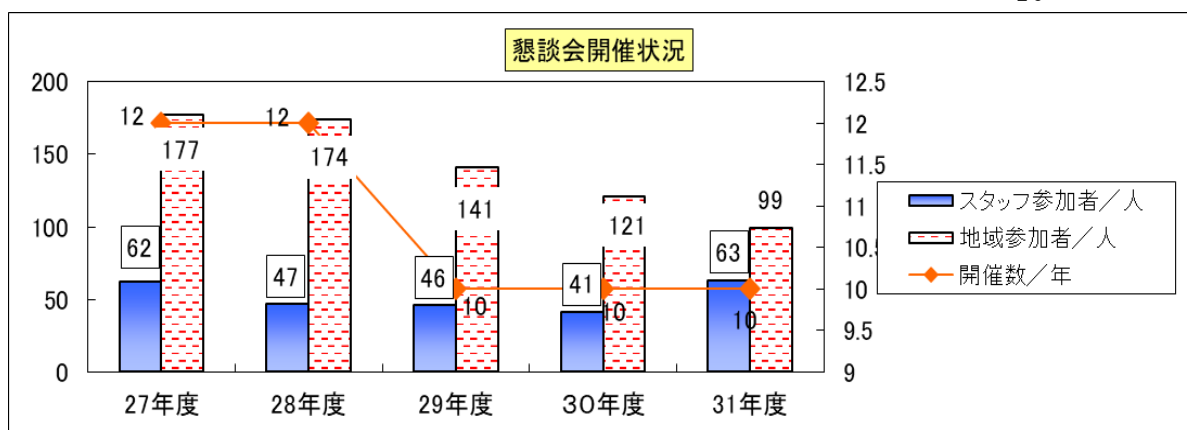
(1) **地域アセスメントシートを活用した地域支援**

- ▶ 地域アセスメントシートを更新。評価委員・職員・関係機関職員に配布し共有した
- ▶ 生活支援介護予防連絡会等で、用いて協議をした

(2) 住民同士の話し合いの場づくりを支援(旧小学校区)

- ▶ 活動目標の達成に向け、活動計画を推進する懇談会を旧小学校区単位で実施した

10 回



- 活動目標推進に向けた推進団体等の話し合いへの支援を行った

28 回

- ▶ 松ヶ丘12回、石原6回、相川5回、森3回、瀬戸1回、田井1回

(3) 地域活動支援交付金の活用を促進

- ▶ 地区長会にて交付金の説明
- ▶ 各小学校区の懇談会にて交付金の申請を促進
- ▶ 森・相川・瀬戸の3小学校区が、活用

(4) 中・高・大学生の参加促進

- ▶ 相川らら イベントを通じて小学生から高校生まで幅広いボランティアの協力を得た
- ▶ 瀬戸 嶺北RYNがツリーテラスを活用したカフェを実施した
- ▶ 石原 高知大地域協働学部が地域活動や地域の話し合い等に参加

(5) 支援員・協力隊等地域支援における連携会議開催及び協力体制づくり

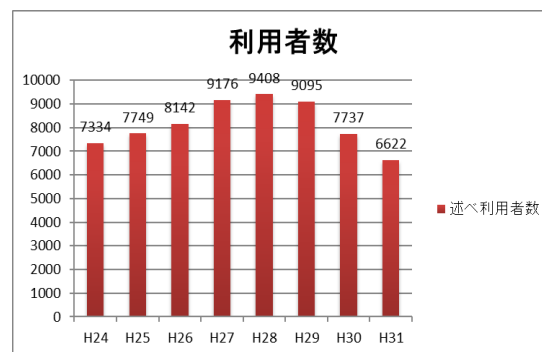
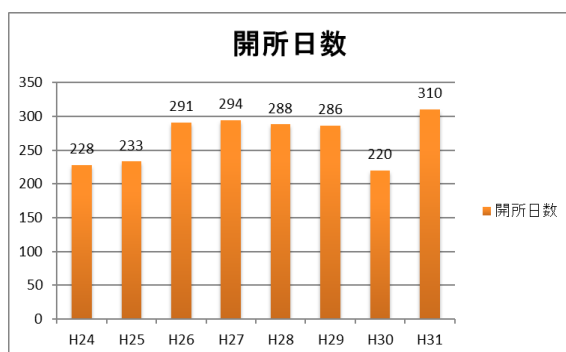
- ▶ 集落支援員・産業振興課・健康福祉課・社協の連絡会を開催 11 回
- ▶ 役場地域担当者リーダー会議に参加 2 回
- ▶ 役場地域担当者会に参加 17 回

専門職等との連携を強め、あったかふれあいセンター機能の充実を図りました。また、住民同士の支え合いの拠点づくりを進め、いつでも気軽に利用できるセンターづくりを進めました。

(1) 10か所におけるサテライト開設

- あったかふれあいセンター事業を受託し、サロンCoを2人を配置し事業を実施した
- 3月はコロナ感染予防対策として、集いは中止。訪問活動を継続して行った

▶ ① 集う	310日	延べ	6,622	人
▶ ② 交わる(地域間交流・保育園児・視察 他)	23日	延べ	540	人
▶ ③ 学ぶ	24日	延べ	398	人
▶ ④ 送る	249日	延べ	1,933	人
▶ ⑤ 生活支援	20日	延べ	21	人
▶ ⑥ 訪問	110日	延べ	678	人



(2) 利用していない方等へのアプローチ（訪問）

- ▶ 地域サポーターと、利用していない地域住民をピックアップし利用者の拡大を図った。

(3) 異世代・地域外との交流の機会をつくる（交流）

▶ 夏休みプロジェクト	4 回	192 人	(高齢者32人、障害者1人、他 35人、子ども124人)
▶ 冬休みプロジェクト	1 回	22 人	(高齢者0人、障害者0人、他1人、子ども 21人)
▶ 春休みプロジェクト	0 回	0 人	(高齢者0人、障害者0人、他0人、子ども0人)
▶ みつば保育園児交流	4 回	170 人	(高齢者61人、障害者1人、他12人、子ども96人)
▶ 地域外の方との交流	13 回	316 人	(高齢者228人、障害者0人、他33人、子ども55人)

(4) 学習プログラムなどを取り入れ機能を強化する（学ぶ）

21 回	446 人	(高齢者429人、障害者0人、他14人、子ども3人)
------	-------	----------------------------

(5) **運転手の確保等送迎体制の充実（送迎）にむけ行政と検討**

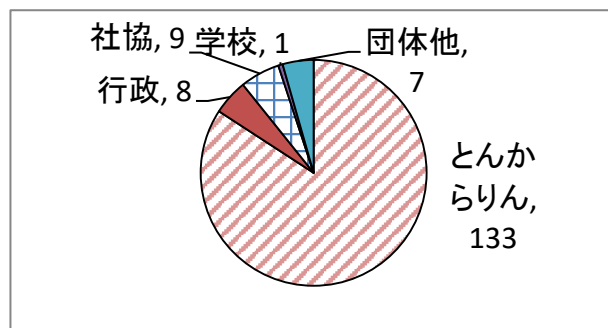
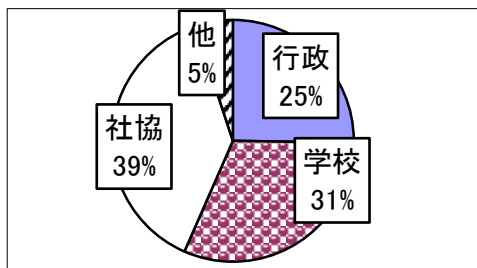
- ▶ ゆうあい号・バスを有効活用し送迎の支援をした。
- ▶ あったか強化事業において、送迎における運転手雇用継続ができた。
- ▶ あったかサテライトと集いの実施地区における外出支援（おでかけ）の送迎

あったか 19 回

地域の集い 2 回

ゆうあい号利用回数 158 回

社協バス 利用回数 97回



(6) **あったかふれあいセンターへのボランティアコーディネート** 206 回 1,196 人

- 長期休暇に子どもたちが地域の方とふれ合えるプロジェクトを実施し、これまで関りのなかった方の参加につながった。

(7) **各集い 全体会の実施**

- ▶ あったかフェスティバル ※コロナウイルス感染防止対策の為、中止
- ▶ 地域の集い連絡会 ※コロナウイルス感染防止対策の為、中止

(8) **拠点化と集いを支えるスタッフの配置**

- ▶ あったかふれあいセンター強化事業を受託しパート職員配置 5 人
- ▶ サテライト開設時の送迎運転手をシルバーより派遣し配置 2 人

(9) **包括、保健師と連携した利用者ケア会議の実施**

生活支援介護予防連絡会をH30年度より、開始。包括や保健師、生活支援コーディネーターと社協職員が一同に会し、情報共有の場、そして社会資源集の作成を行った。

4 回

(10) 住民の役割・出番づくりと自主運営への支援

- ▶ 移住者や県内外からのボランティア活動支援
- ▶ 老人クラブの各クラブ立ち上げと運営支援
- ▶ 県からの助成金＜高齢者生きがい・健康づくり支援事業＞活用の支援(三島会)
- ▶ 企業からの助成金＜きよしサンタ基金＞活用の支援(中島カレーの日)